放送から見えてくるアフガニスタン

～黎明期から　2021年11月ターリバーン体制下のメディア状況まで～

諜報研究会　2021年11月6日
坂上　裕規

自己紹介:　坂上 裕規（さかがみ ゆうき）

- 中学時代から海外のラジオ（テレビ）放送をモニタリングし分析するのが趣味
- アラビア語を学ぼうと思ったきっかけも中学時代に海外のラジオを聴くうちに…
- 1979年　大阪外国語大学アラビア語学科入学
- 1982年～83年　北アフリカのチュニジア・チュニス大学付属語学学校に留学
- 1984年からNHKで国際放送分野を中心に仕事をする（アラビア語・ペルシャ語・英語のラジオのニュースや番組の制作・編集・翻訳、英語のテレビ番組制作などを担当）
- 1987年～88年　エジプト・カイロ大学で語学研修
- 2年半前にNHKの子会社に移り、引き続き多言語による国際国際放送発信業務に携わる
- アフガニスタンとのかかわりも最初はラジオ国際放送がきっかけ
- その後もアフガニスタンを含む世界の放送をモニタリング。主として事件・政変等のタイミングに注目
- 2002年9月にアフガニスタンを仕事で訪問

自己紹介:　坂上 裕規（さかがみ ゆうき）

趣味が高じてさまざまなスクープ音声を受信・モニタリング

- 1975.4　南ベトナム解放戦線によるサイゴン解放第一声をラジオで受信
- 1981.2　アフガニスタン反政府地下放送第一声を傍受、その他の地下放送のモニタリング*　（後述）
- 1990.8　湾岸危機　イラク軍事侵攻下　ラジオ・クウェートによる抵抗の声を受信*
- 1991.1　リトアニア国営放送ビルへのソ連空てい部隊突入当日（血の日曜日事件）の放送をモニタリング*
- 1991.1　湾岸戦争勃発　多国籍軍によるイラク攻撃開始　フセイン大統領第一声をラジオで受信*
- 2001.10　アフガニスタンへの米英による空爆開始　ターリバーン体制のラジオ放送が途切れる瞬間を受信*
- 2001.11　米軍によるアフガニスタンへの「メッセージ放送」をモニタリング
- 2001.12　ターリバーンの指導者オマル師　カンダハール撤退を前にした最後のラジオメッセージを受信
- 2003.3　イラク戦争　米軍によるイラクへの「メッセージ放送」や、イラク国内各派による地下放送を傍受*
- 2004.4　イラク　ファッルージャへの米軍の攻撃　米軍による「メッセージ放送」を傍受
- 2011.3　リビア民主化の動き　地方のラジオ局が反政府メッセージを流し始めたところを傍受*
- 2011.5　リビア情勢　米軍によるリビア政府と港湾労働者向けの「メッセージ放送」を傍受*　……ほか

アフガニスタン

أفغانستان

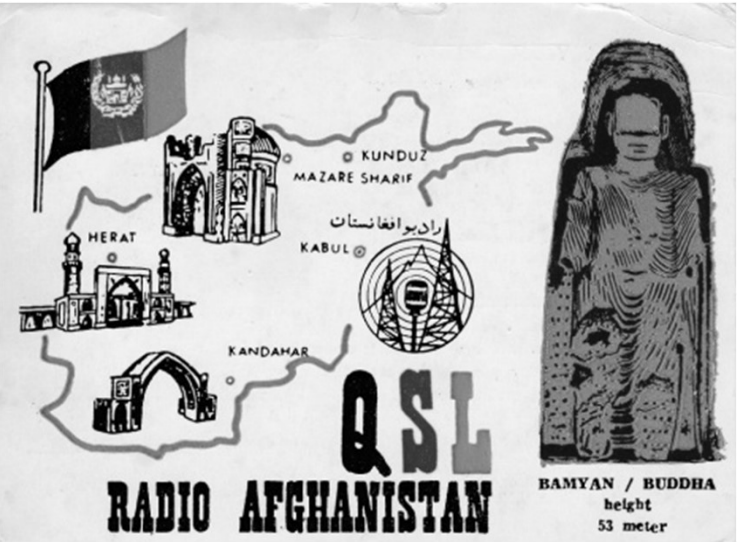
- ◆ 国名:　Islamic Republic of Afghanistan
  （日本はターリバーン体制を未承認のため旧体制の国名）
- ◆ 面積:　約 65万平方キロメートル （日本の約1.7倍）
- ◆ 人口:　約 3,890万人（2020年　世界人口白書）
- ◆ 首都:　カブール
- ◆ 公用語:　パシュトゥ語、ダリー語
- ◆ 民族:　パシュトゥン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人、ウイグル人ほか
- ◆ 宗教:　イスラーム教

（外務省ホームページを参考）

アフガニスタン略史

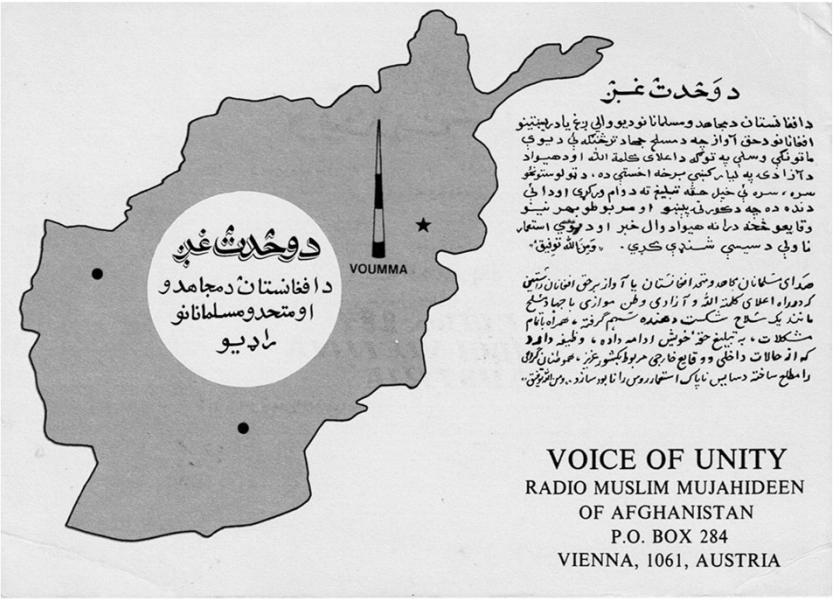
- ◆ 1919年　アフガニスタン独立宣言
- ◆ 33～73年　ムハンマド・ザーヒル・シャー国王の時代
- ◆ 64年　女性に参政権が認められる
- ◆ 73年　ムハンマド・ダーウードのクーデターで共和制に
- ◆ 78年　共産主義勢力によるクーデター　第二共和制
  その後もクーデター相次ぐ
  急進的な改革がイスラーム主義者による民衆暴動を誘発
- ◆ 79年　ソ連の軍事介入
- ◆ 89年　ソ連軍撤退　～　アフガニスタン内戦の時代
- ◆ 95年　ターリバーン　ヘラート制圧
- ◆ 96年　ターリバーン　首都カブール、ジャララバードを制圧
  ターリバーンによるアフガニスタンの実効支配の時代
- ◆ 2001年　NY貿易センタービルなどへの同時テロ攻撃（9月11日）
  米英軍によるアフガニスタン軍事介入（10月7日）
  北部同盟勢力　カブール解放（11月13日）
  ターリバーン　本拠地カンダハールを放棄（12月7日）
- ◆ 2021年　ターリバーン　ふたたびアフガニスタンを実効支配

アフガニスタンのラジオ・テレビ



- ◆ 1927年： ラジオ放送が始まる
- ◆ 短波による国際放送は60年代からRadio Afghanistanの名称で実施 （日本の援助も）
- ◆ 78年： テレビ放送開始 （スタジオ設備等は日本の援助）
- ◆ 79年： ソ連のアフガニスタン侵攻後　国際放送ソ連中継開始
- ◆ 80年代： 対アフガニスタン地下放送の各局の活動が活発に
- ◆ 89年： ソ連撤退～国内が戦乱状態　放送はたびたび中断
- ◆ 96年： ターリバーンが実効支配。テレビ放送禁止。ラジオは「シャリーア（イスラーム法）の声」と改称。国際放送も実施
- ◆ 2001年： 首都カブール解放。テレビ復活
- ◆ 2021年8月：再びターリバーンが実効支配。しかし、20年前のターリバーン体制とは少し異なるメディア政策？

アフガニスタン向け地下放送 （1980年代）



◆ 1979年12月のソ連によるアフガニスタン侵攻をきっかけに、反政府勢力各派による地下放送が相次いで活動を開始。1983年までにはその数が11に…

”ラジオ・自由カブール“（国内反政府勢力・ソ連軍向け）

“アフガン・ムジャーヒディーンの声”（国内反政府勢力）

“自由アフガニスタン放送”（国内反政府勢力）

“パンジシール放送”（マスウード派）

“アフガニスタン統一ムジャーヒディーンの声”（米CIA）

“アフガニスタンの声”（反ソビエト勢力）　　など

1996年～2001年　ターリバーン体制下の放送

- 95年9月：ターリバーン　西部の第二の都市ヘラート制圧
- 96年9月：首都カブール、ジャララバード制圧～実効支配
- 96年9月28日：「シャリーアの声」放送開始

ターリバーンによる布告

「シャリーアの声放送」
ターリバーン代理政府首相布告（抄）

- 武器を所有する者は最寄りの軍事施設に引き渡すこと
- あらゆる女性は自宅外で仕事をする権利を持たない
- 人間および動物の写真を貼ることを禁じる
- イスラーム教家族は結婚式の時でも音楽を聴く権利はない
- マニュキア、口紅、顔への化粧を禁じる
- 口笛を吹くこと、笛吹ケトルの所有を禁じる
- 犬、鳥を飼うことを禁じる
- 凧あげをしてはいけない
- 警察が違反者を罰する場合、いかなる者も質問や批判をする権利はない
- シャリーアの戒律に違反するものは、公共の場ですぐさま罰せられる

ほか多数

1996年～2001年　ターリバーン体制下の放送

- 95年9月：ターリバーン　西部の第二の都市ヘラート制圧
- 96年9月：首都カブール、ジャララバード制圧～実効支配
- 96年9月28日：「シャリーアの声」放送開始

  ターリバーンによる布告

  - 音楽のないラジオ放送
  - テレビ放送の中止～テレビ視聴の禁止

1996年～2001年　ターリバーン体制下の放送

- 95年9月：ターリバーン　西部の第二の都市ヘラート制圧
- 96年9月：首都カブール、ジャララバード制圧～実効支配
- 96年9月28日：「シャリーアの声」放送開始

ターリバーンによる布告

- 音楽のないラジオ放送
- テレビ放送の中止～テレビ視聴の禁止
- 音楽・映像資料を守った人びと

1996年～2001年　ターリバーン体制下の放送

- 95年9月：ターリバーン　西部の第二の都市ヘラート制圧
- 96年9月：首都カブール、ジャララバード制圧～実効支配
- 96年9月28日：「シャリーアの声」放送開始

  ターリバーンによる布告

  - 音楽のないラジオ放送
  - テレビ放送の中止～テレビ視聴の禁止
  - 音楽・映像資料を守った人びと
  - 「シャリーアの声」海外向けサービス充実：　英語、アラビア語など6言語で放送
- 2001年9月11日：世界貿易センタービルなどへテロ攻撃
- 01年10月7日：米英軍アフガニスタン軍事介入開始
- 01年10月8日：空爆によりラジオ放送停止
- 01年11月13日：首都カブール解放　音楽と女声戻る
- 01年12月7日：ターリバーン　本拠地カンダハール放棄

指導者ムハンマド・オマルの最後のラジオメッセージ

2021年8月～現在 ターリバーン体制再び いま放送は？

- 2021年8月13日： ターリバーン 第二の都市ヘラート制圧
- 8月15日： 首都カブール制圧 大統領は海外逃亡
- 8月15～16日： テレビ放送の変化～クルァーン朗誦と宗教番組一色
  ラジオ放送がターリバーンの歌を流し始める
- 8月17日： 国営ラジオが「シャリーアの声」と名乗り始める
- 8月19日： 国営テレビにターリバーン広報官登場
  スタジオセットを一新
- 8月22日： 国営テレビ ターリバーンのPRビデオ放送始める
- 9月3日： 英国BBC アフガニスタン向け放送を強化 短波放送を充実
- 9月19日： ターリバーン 報道機関向け規則を発表

2021年9月19日 ターリバーン政府メディア局による放送機関向け規則（抄）

- イスラームの教義に抵触する話題は報じない
- 国家の要人を侮辱しない
- ニュースの内容を歪曲しない
- 当局者が正確性を認めていない事柄は注意深く扱う
- 世論や国民の士気に悪影響を与えかねない問題は慎重に報じる
- 中立性の原則を守り真実のみを伝える　　など

「国境なき記者団」（RSF）は…

- ◆ 何が違反行為に当たるかを当局が恣意的に解釈できる
- ◆ アフガニスタンのジャーナリズムの独立性や多様性に暗い先行きを示すものだ

2021年11月現在 アフガニスタンのラジオ・テレビ

【国営メディア（ターリバーンのメディア）】 ※ネットストリーミングはダウンしている

テレビ： RTA 国営テレビ、RTA スポーツチャンネル

ラジオ：「シャリーアの声」（Sedaye Shari ‘at）

【民放】

テレビ： TOLO、TOLO NEWS、SHAMSHAD、ATN、ATN NEWS、AFGHANISTAN TV… ほか

ラジオ： RADIO KILLID、ARIANA FM、ATN NEWS FM、SALAM WATANDAR、RADIO ARIANA、RADIO JAWANAN、JAWANAN YOUTH… ほか

【アフガニスタン国内で放送中（FMまたは中波）の海外の放送】

VOICE OF AMERICA（RADIO ASHNA）、RADIO AZADE、
BBC WS FM、BFBS、RADIO FRANCE INTERNATIONAL、RADIO JAPAN ほか

【海外からアフガニスタン向けの放送】

テレビ（衛星）： AFGHANISTAN INTERNATIONAL ほか

ラジオ（短波・中波）： RADIO JAPAN、BBC WS、VOA（ASHNA）、RADIO AZADE、CHINA RADIO INTERNATIONAL、ALL INDIA RADIO、AFGHANISTAN INTERNATIONAL ほか

放送モニタリング　その他の気づき

- 前のターリバーン体制とは異なる点
  - そもそもテレビ放送が継続。ターリバーン体制はむしろテレビを積極活用
  - 8月15日：一日中コーラン朗誦とイスラームの教義解説番組
  - 8月20日：スタジオセット一新　ターリバーン当局者が出演
  - 8月22日：国営テレビ・ラジオ放送にBGM音楽使用、ターリバーンPRビデオの放送始まる
  - 8月28日：民放テレビ局では女性アナウンサーが依然として放送を担当
    女性ゲストも登場
    民放ラジオ局ではアフガニスタン民謡など音楽を依然として放送
  - 9月6日：国営テレビ　CM復活　女声ナレーションが含まれる
    テレビ定時ニュース復活　アナウンサーは背広を着用
- 国際社会を意識
  - 9月24日現在、米国国際放送VOA（Radio Ashna）、Radio Azadi、BBC、Radio France Intl.、Radio Japanが依然としてアフガニスタン国内から電波を出している
  - ヘラートでのターリバーン指導部が突然英語で演説　国営テレビは繰り返し放送
- 目立ち始めた中国の進出は放送・報道分野でも…
  - ターリバーン記者会見場のマイクのロゴマークに注目
  - **次の注目点　➡　中国国際放送のパシュトゥ語放送がアフガニスタン国内でFM、中波配信を開始するかどうか？**

【終わりにあたって】

これからのターリバーンのメディア政策は…

- 実権を握って2か月半経ったいまなお穏健路線
- メディア政策はまだ手探り状態 ～ 国づくりにうまく活用しようと模索
- 20年前からの「学び」の結果？ しかし 地方では悪いニュースも…
- アメリカ、イギリス、中国をはじめ国際社会を強く意識
- ターリバーン体制内部の対立などが起こるといきなり変わる可能性もあり
- 日本を含む外国のラジオ放送がいつまでアフガニスタン国内で放送を続けられるかに注目

これまで述べてきたポイントを軸にアフガニスタンメディアの定点モニタリングを継続し、状況を注視していく…

ご清聴ありがとうございました

坂上　裕規